

2021年5月30日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「風は思いのままに」 ヨハネによる福音書3章1-8節 牧師 広木 愛

「さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますでしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」 ヨハネ3:1-8

ペンテコステの子どもメッセージが紙芝居で届けられました。Sさんが聖書から素敵な絵とメッセージを作成してくださり、小学科の先生が祈りをもって、声を吹き込んで下さり、ペンテコステのメッセージを届けてくださっています。ホームページに載っているのでどうぞご覧ください。その紙芝居を見ているとペンテコステの出来事にも風が出てくるなあと思いながら、聖書にでてくる風は、骨をよみがえらせたり、土で作った人間に命を与えたり、急にいろんな言葉を語れるようになったりする一方で、農業で穀物を振るうために風を使っている。いろんな風が聖書の中にはでてくることを改めて感じさせられます。

風はどこから吹いてどこへ向かっていくのか。

竜巻のように何か、ものを巻き込んでいけば、風が吹いているなあとか、木や電柱が揺れていけば、風が強いのだなと知ることができます。そうでなければ、風に色も形もありませんから、どのように動いているのかはわかりません。風は目で見ることができませんが、風が吹けばそれを感じることができます。旧約聖書の時代から神さまと風をつなげて考えられていたということはなるほどなあとおぼやされます。風は目に見えないけれども、私たちの周りを動いているように、神さまも、目には見えないけれども、わたしたちの日常にかかわり続けておられるのだらうと思

います。聖書に出てくる「風」という言葉は、「息」とも、「聖霊（霊）」とも訳せる単語です。目に見えなくても、確実に私たちの日常にあるもの、しかも神さまから発信されているものであるということを知ることができるのだらうと思います。

ニコデモとイエスさまの会話の中でも、イエスさまが、神さまの働きを風で表しておられます。ニコデモが、「新たに生まれるためには、母の胎に戻るしかないのでは・・・」という問いをイエスさまに投げかけると、イエスさまは、『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。』とお答えになっておられます。

神さまが準備されている私たち一人ひとりへの計画は、風のように目に見えないもので、どこから来て、どこに行くかもわからないもの…なのかもしれません。先週のペンテコステの時にも、激しい風のような音がして、主の霊に満たされて弟子たち「霊が語らせるまま」ほかの国々の言語を話し始めたと書かれています。

「霊が語らせるまま」。自分の意思とは関係ないところでいろんな出来事が動いていく。それは神さまが聖書の時代から、今も私たちに下さっている、神さまの変わらない愛の計画なのかなあとおぼわされています。わたしたちが理解できることだけにとどまらない神さまの御業が、ペンテコステの出来事にも、風が出てくる物語の中に示されているのだらうと思うのです。

先日、教会学校の少年少女科と成人科の科長会が行われ、それに少しだけ参加させていただきました。コロナ前にはきっと時間を持つことも難しかったと思われる科を超えての懇談の時。教会学校のそれぞれの科の働きは神さまが起こして下さったものですが、それぞれの科の働きを聖霊の風が通り抜けていった瞬間だったのだらうなあとおぼわされています。

もうしばらくはオンラインの礼拝になる中でも、これまでにはなかった教会の働きが新たに起こされていることを思います。その一つ一つに、神さまが霊を注いで下さり、神さまの自由な風が、神さまの思いのままに、大井教会に吹いているのだらうと思います。

コロナの中でどのような礼拝ができるのか、どのように賛美ができるのか、どのように教会学校を持てるのか。神さまが、思いのままに吹かせる風で示して下さる道を、祈りつつ、コロナの中でも新しい働きを共に担っていきたくて願っています。必要な時には、神さまの霊が思いのままに吹く。神さまがこれまでの当たり前を簡単に乗り越えて、新しい教会を示して下さることを期待します。